

令和4年度 都立武蔵高等学校・都立武蔵高等学校附属中学校
学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立武蔵高等学校・都立武蔵高等学校附属中学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 主幹教諭（教育情報部主任）＝事務局長、非常勤教員（教育情報部）、経営企画室長
計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長（中・高）、主幹教諭（高校生活指導主任）、主任教諭（高校教務主任、高校学習進路部主任、中学2学年主任、高校2学年主任） 計8名
- (4) 協議委員の構成
保護者代表（3名）、同窓会代表（1名）、近隣小学校長（1名）、近隣中学校長（1名）、教育行政関係者（1名）、地域関係機関代表（1名）、地域住民代表（1名） 計9名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日、出席者、場所、内容
第1回 令和4年6月21日（火） 内部委員2名、協議委員8名、校長室
委員紹介、学校経営計画等について、本校の現状と課題等（当初目標）について、意見交換
第2回 令和4年11月8日（火） 内部委員2名、協議委員8名、校長室
本校の現状と課題等（中間報告）について、学校評価アンケートについて、意見交換
第3回 令和5年2月14日（火） 内部委員2名、協議委員8名、校長室
授業公開、本校の現状と課題等（最終報告）について、学校評価アンケート集計結果、意見交換
- (2) 令和4年度評価委員会の開催日時、会場、出席者、場所、内容
令和4年11月8日（火） 内部委員2名、評価委員2名
今年度の学校評価の観点・項目、アンケート項目の検討、意見交換

3 学校評価アンケートの概要

- (1) 評価の観点
「学校への理解」、「学校の意欲」、「学校の実践」の観点で評価する。
- (2) 実施時期・対象・規模
 - 実施時期 12月
 - 対象（規模） 高校生徒（416人）、附属中学校生徒（440人）
高校保護者（416人）、附属中学校保護者（440人）
教職員（52人）、地域住民（8人）
 - 回収率 高校生徒（304人）73.1%、附属中学校生徒（406人）92.2%
高校保護者（333人）80.0%、附属中学校保護者（439）99.8%
教職員（46人）88.5% 地域住民（8人）100.0%

(3) 主な評価項目

- 学校運営、学習活動、生活指導、進路指導、特別活動など
- 今年度の重点：学習指導、進路指導、コロナ禍における学校行事の実施

(4) 結果の概要 ※数値は特に記されていない場合は「そう思う」「ややそう思う」の計

①高校生徒

- 学校生活全般に関して、87.4%の生徒が充実していると回答した。本校の教育目標を知っている生徒が89.5%、本校の生活が自分の将来にとって有益であると思う生徒が76.42%となった。また、本校には他の学校にない特色があると考えている生徒は90.0%であり、昨年度から大幅に増加したが、これは学校行事が実施できていることが要因と考えられる。
- 学校生活の中でも授業はその核となるものである。授業に関する質問では、年間授業計画に基づいた授業が行われていると思う生徒が90.0%、授業が工夫されていると感じている生徒が87.9%、進学希望に向けた選択科目が設置されているとした生徒が77.4%と、教育課程や授業への数値が高いだけでなく、昨年度を上回っているものが多い。また予復習などを行っていると回答した生徒が73.1%おり、家庭学習の習慣がほぼ定着しているといえる。全体的に授業に対しても、82.6%の生徒が満足していると回答した。
- 生活指導において、本校では校則がない分、学校生活において自ら考える場面が多くなっているが、

それでも生活指導の方針が明確に示されていると思う生徒は58.5%と半分を超えた。一方、基本的な生活習慣やマナーが身につくような指導については81.6%の生徒が行われていると考えていた。また生徒の心身の悩みに応えられる適切な指導が行われていると思う生徒は69.4%、学校が体罰や暴言をなくすために積極的に取り組んでいるとする生徒は86.3%に及んだ。

- 進路指導については、生徒の適性や希望などに合わせ適切できめ細やかな進路指導が行われていると思う生徒が79.0%、希望進路実現に向けて工夫された行事や活動が行われていると思う生徒が81.3%に達した。いずれも昨年度・一昨年度を上回っており、進路実現に向けた指導が学習進路部や担任団との連携の中で、適切な時期に行われている成果であると考えられる。
- 学校行事や部活動についても高評価である。学校行事を通じてさまざまな生活体験ができていると思う生徒が88.1%、ホームルーム活動は活発でクラス全体で関わっていると思う生徒が83.3%、教員の適切な指導のもと学校行事で自発的・自立的な活動ができていると思う生徒が81.1%となった。また、部活動は活発であると思う生徒が70.5%、学校行事は楽しく有益であると感じている生徒が93.2%と非常に高い評価をしており、コロナ禍で生徒が健康で安全な学校生活を送ることができるよう配慮していると思う生徒が90.3%であることから、緩和されつつもコロナ対策をとりながら行事を実施できた喜びを感じていると思われる。
- 本校の生徒であることに満足していると思う生徒が87.0%おり、その他の項目と同様高評価であった。その他、防災訓練や交通安全指導が効果的に行われているという生徒が75.3%、敷地内や体育施設内が整備されているという生徒は77.4%となった。

②中学生徒

- 学校生活が充実していると思う生徒が95.5%おり、学校生活全般への満足度は高いといえる。また本校の教育目標を知っている生徒が90.0%、本校には他の学校にはない特色があると思う生徒が88.7%となった。本校の生活が自分の将来にとって有益であると思う生徒は96.4%にも達し、ここからも充実した学校生活を送っていることがわかる。
- 授業に関しても、年間授業計画に基づいた授業が行われているという生徒が92.1%、授業は理解しやすくなるよう工夫されて進められていると思う生徒が90.3%、また本校の特色の一つである「地球学」の時間は楽しく有益であると回答した生徒も83.5%となり、高評価である。さらに全体的に授業に満足している生徒は91.0%にも達した。一方で、予復習など自分自身で勉強しているという回答した生徒は87.0%となり、昨年の78.7%から大幅に増加した。
- 生活指導については、生活指導の方針が明確に示されていると思う生徒が74.1%、基本的な生活習慣やマナーが身につくような指導が行われていると思う生徒が87.7%となっており、本校教員の生活指導が生徒に定着しているといえる。また生徒の心身の悩みに応えられる適切な指導が行われていると考える生徒は74.5%、学校が体罰や暴言をなくすために積極的に取り組んでいると思う生徒が87.4%であった。
- 本校の進路指導は、6年間を見通した上で計画・実施されている。生徒の適性や希望などに合わせ、適切できめ細やかな進路指導が行われていると思う生徒が74.1%、将来の自分を考えるための情報や資料が十分に提供されていると思う生徒が81.1%となった。中学段階でも進路・キャリア教育の充実がうかがえる。
- 学校行事や部活動に関しては、学校行事を通じて様々な生活体験ができていると思う生徒が95.4%、ホームルーム活動は活発でクラス全体で関わっていると思う生徒が86.7%であった。また部活動について活発であると思う生徒は90.8%、学校行事は楽しく有益であると感じている生徒が97.2%となり、コロナ禍で生徒が健康で安全な学校生活を送ることができるよう配慮していると思う生徒が94.0%いることも併せて考えると、高校同様、実施できるようになった部活動や学校行事の充実ぶりがうかがえた。
- 本校の生徒であることに満足していると思う生徒が95.0%に達した。その他、防災訓練や交通安全指導が効果的に行われていると考える生徒が75.4%、敷地内や体育施設内が整備されているとした生徒は86.9%と高評価であった。

③高校保護者

- 学校生活全般に関して、本校の教育目標を知っている保護者が85.1%、本校には他の学校にはない特色があると考えられる保護者が78.8%となった。また、本校での生活は子供の将来にとって有益であると考えられる保護者が92.8%、子供の学校生活は充実していると回答した保護者は86.5%とこちらも高い評価を得た。
- 授業については、年間授業計画に基づいた授業が行われているという保護者が83.9%、授業が理解しやすくなるよう工夫されて進められていると感じられる保護者は81.4%、進路希望に応じた

多様な選択科目が設置されていると考える保護者は81.6%となった。また子供が予復習を行っていると考えた保護者は71.0%あり、学校での授業と自宅等での家庭学習がうまく回っていると考え、75.4%の保護者が、子供が授業に満足していると考えているようである。

- 生活指導に関しては、生活指導の方針が示されているという回答が75.3%、子供に対して基本的な生活習慣やマナーが身につくような指導が行われているという回答が81.9%と高い評価となった。また子供の心身の悩みに応えられる適切な指導が行われているという保護者は73.2%、学校が体罰や暴言をなくすため積極的に取り組んでいるという保護者は82.9%であった。
- 進路指導については、子供の適性や希望などに合わせ適切できめ細かな進路指導が行われていると考える保護者が75.6%、学校は進路に関する情報や資料を保護者に提供するよう努めていると考える保護者が82.4%となっており、これらの項目でも、高く評価されていると考えている。
- 学校行事などの特別活動では、子供が学校行事を通じて多様な生活体験ができているという回答が74.8%、ホームルーム活動は活発でクラス全体で関わっているという回答が84.3%、また子供にとって学校行事は楽しく有益であると思える回答は94.1%にも達した。部活動については、活発であるという回答が66.0%、コロナ禍で子供が健康で安全な学校生活を送ることができるように配慮しているという回答が87.2%あり、引き続き本校の感染症対策が保護者に認められているといえよう。
- その他、子供が本校の生徒であることに満足していると考えた保護者が90.5%、教職員が保護者との連携をとるよう努めているという保護者も78.1%あり、学校の指導に満足感を得ているように思われる。また国や都が教職員の働き方改革に取り組んでいることを知っているという回答した保護者は85.5%であり認知度の高さがうかがえた。一方、防災訓練や交通安全指導が効果的に行われていると回答した保護者は79.5%であった。

④ 中学保護者

- 学校生活全般について、本校の教育目標を知っている保護者が91.8%、子供の学校生活は充実しているという保護者が94.2%に達した。また、本校での生活は子供の将来にとって有益であるという保護者が昨年同様99.4%であり、本校の教育活動が高く認められているといえる。本校には他の学校にない特色があるという保護者も92.7%あった。
- 授業について、年間授業計画に基づいた授業が行われているという保護者は97.8%、授業は理解しやすくなるよう工夫されて進められていると感じている保護者は86.3%、中1から高1まで継続される地球学の時間が子供にとって有益であるという保護者は96.0%であった。子供が予復習などに取り組んでいるという保護者が昨年度より増加して74.1%となり、中学段階から家庭学習が定着し、結果として、授業に満足しているという回答84.6%につながっていると考えられる。
- 生活指導については、生活指導の方針が明確に示されているが87.3%、子供に対して基本的な生活習慣やマナーが身につくような指導が行われているが90.5%、子供に心身の悩みに応えられる適切な指導が行われているが77.4%という回答結果となり肯定的にとらえられている。また学校が体罰や暴言をなくすために積極的に取り組んでいるとした保護者は86.9%となった。
- 進路指導については、子供の適性や希望などに合わせた適切できめ細かな進路指導が行われていると回答した保護者が74.0%、子供が将来を考えるための情報や資料が十分に提供されていると回答した保護者が79.3%となり、高校同様、高評価を得た。
- 特別活動について、学校行事に関しての設問では、子供は学校行事を通じて多様な生活体験ができていると考える保護者が90.4%、また子供にとって学校行事は楽しく有益であると思える保護者は96.3%もあり、保護者が教科の学びだけではなく学校行事の実施も求め、今年度満足していることがわかる。ホームルーム活動は活発でクラス全体で関わっていると考えた保護者が89.2%、部活動が活発であるという保護者が81.1%、学校はコロナ禍で子供が健康で安全な学校生活を送ることができるように配慮していると考えた保護者が94.3%にも達し、今年度も感染症対策については理解を得られていると認識している。
- その他、子供が本校の生徒であることに満足しているという回答した保護者は97.5%にも達した。教職員は保護者との連携をとるよう努めているという回答も84.6%あり、学校に対する満足度は高いといえよう。また、国や都が教職員の働き方改革に取り組んでいることを知っているという保護者は82.4%に達し、高校保護者同様、認知が広がっていると考えられる。また、防災訓練や交通安全指導が効果的に行われていると思える保護者は86.9%となった。

⑤ 教職員

- 本校全般に関して、生徒や保護者に対して教育目標の周知を図っている、生徒は本校での生活が自分の将来にとって有益であると感じている、生徒にとって学校生活が充実している、本校には他の

学校にはない特色があるという質問は全て85%以上、特に生徒の学校生活の充実については95.2%が肯定的評価をしている。概ね本校の教育が受け入れられているといえる。

- 授業に関しても、授業が理解しやすくなるよう工夫している、本校のカリキュラムは生徒の進路希望に応じた多様な選択科目が設定されているといった設問の他、生徒が予復習などを行っているという設問もすべて90%以上となり、自学自習の習慣が身につけていると認識しているといえる。
- 生活指導についても、生活指導の方針が明確に示されているとの回答が77.8%、生徒に基本的な生活習慣やマナーが身につくような指導を行っているという回答が89.5%、生徒の心身の悩みに応えられる適切な指導に努めているとの回答が97.5%あった。生徒に寄り添いながらも、きちんとした指導を行っているという自負が感じられる。
- 進路指導については、生徒の適性や希望などに合わせ適切できめ細かな進路指導を行っているという回答が95.3%、進路に関する情報や資料を生徒や保護者に提供するよう努めているという回答が98.2%、進学校として生徒の希望進路実現に向けて行事や諸活動に工夫を加えているという回答が92.2%となっており、こちらも生徒の希望進路実現に向けて、教員が力を尽くしていると考えていることがわかる。
- 特別活動については、生徒や保護者と同様の傾向がみられ、コロナ禍で生徒が健康で安全な学校生活を送ることができるよう配慮していると思える教員、生徒にとって学校行事は楽しく有益であると思える教職員がともに95%以上になった。部活動の活性化に向け積極的に関わっていると80.7%が回答しており、学校行事や部活動などの活性化に向け、努力していることがうかがえた。また、ホームルーム活動は活発にクラス全体で関わるようにしていると91.7%が回答した。
- その他、生徒が本校の生徒であることに満足する学校であると思う教職員が91.6%、本校の教職員であることに満足しているという回答が84.6%と、高い満足感を得ながら生徒指導にあたっていることがわかった。一方、会議の時間短縮を目指し、教職員の在校時間の縮減を図っているという回答は58.5%で働き方改革の実践は完全とはいえないが、教職員間で教育情報の交換がスムーズに行われているという回答が65.2%、教職員間のライフワークバランスの実現が図られているとする回答は37.0%であった。

⑥地域

- 学校はコロナ禍で生徒が安全な学校生活を送ることができるよう配慮しているとの回答が62.5%、公開講座の実施やホームページ等開かれた学校づくりに積極的に取り組んでいるように見えるという回答が75.0%あった。
- 生徒の様子では、道徳活動等の成果が感じられるという回答が62.5%、文化祭などの学校行事が楽しく有益であるという回答が75.5%、部活動や生徒会活動に熱心に取り組んでいるという回答は88.0%となった。今後、感染症が収まっていき、学校公開が地域にも行われるようになれば、より肯定的な評価が高まっていくと考えている。
- 日常の教育活動に地域社会の意見や要望が取り入れられているように見えるという回答が50.0%、学校は地域社会等の活動に対して協力的であるという回答が62.5%、生徒の徒歩や自転車での交通マナーは良好であるという回答は75.5%であった。
- 地域にとって都立武蔵高等学校・附属中学校は誇りになる学校であるとの回答が100%、家族や身近な人を本校に入学させたいという回答が75.0%あり、武蔵の教育活動が地域に認められているといえよう。また武蔵には他の学校にない特色があるという回答も87.5%あった。

(5) 結果の分析・考察

ア 学校運営

生徒や保護者に対しての本校の教育目標の周知については、学校案内への掲載、教室の前方で掲示を通じて、入学前から、そして入学後も常に、目にするよう周知をはかっている。これらの成果により、生徒・保護者とも85%以上の認知度があり、例年どおり非常に高い状態が維持されている。

また、本校の特色、学校生活の有益性や充実度に関しても、全て75%以上となっており、生徒・保護者とも学校生活が有意義であると考えていると認識している。

イ 学習活動

年間授業計画に沿った指導、授業の工夫について、高校生85%以上、中学生90%以上で、昨年度よりさらに評価が上がった。生徒は日々の授業で本校教員の質の高さを実感していると思われるが、保護者にも授業公開等によって、授業の様子が確認できたようである。授業公開は来年度についても、感染症対策を施した上で可能な限り実施していきたい。

また予習・復習に関しては中学生85%以上、高校生70%以上がやっていると回答したが、一方

教員は90%を超えた。生徒の自己評価はやや低いものの高水準で、教員は家庭学習が全体的に習慣づいていると認識している。

ウ 生活指導

高校では校則は設けておらず、生徒の自主性を重んじながら、自ら考えて行動する指導を行っている。それを反映してか生活指導の方針の明確化については、高校生の肯定的評価は50%台にとどまったが、基本的な生活習慣やマナーが身につく指導については75%が評価していた。教員が放任しているわけではなく、日常的に声掛け等の指導を行っていることを反映しているといえる。

一方、生徒の心身の悩みに応えられる適切な指導が行われているかという設問に対しては、高校生の肯定的評価が70%程度であった。支援が必要な生徒には、教員がより生徒に寄り添う指導を行ったり、スクールカウンセラーとの連携を含め教員間での情報共有を行い、複数で注視したり対応したりすることが求められている。

エ 進路指導

本校が重んじる進路指導については、中学・高校ともいずれの項目でも高い評価を得ている。年次にあわせ、進路部と担任団による組織的な面談指導等が功を奏しているといえよう。

進路情報や資料の提供に関しては、生徒・保護者とも70%後半から80%前半の肯定的評価をしている。保護者にも保護者会や進路通信などでの情報提供がきちんとなされていると考えている。

オ 特別指導

学校行事の有益性については、中高の生徒・保護者がそろって90%以上の高評価であった。今年度は宿泊行事を含め、感染症対策を施しながらも行事が実施された。部活動や学校行事が実施され充実感を得られたといえる。また感染症対策を施したことで、創意工夫をこらした行事の運営が行われたが、生徒には有意義に感じられたと思われる。

部活動についても、多くの大会が開催されたようである。そのような中、生徒や保護者の努力、保護者の協力もあって、どれも肯定的評価につながったと考えられる。

カ その他

感染症対策に関して、健康・安全面の配慮については、生徒・保護者とも90%程度が肯定的評価をしている。基本的な感染症対策の指導（毎日の検温や手指消毒指導など）の成果と考えている。

一方で、地域の方からは、本年も本校が誇りになる学校であると皆様から回答をいただいている。こちらを励みに、地域についても考慮しながら、教育活動を進めていきたい。

ところで、昨年度よりアンケートの実施方法を一部変更した。近隣地域の方からは以前のままマークシートで行ったが、生徒や保護者にはMicrosoft Formsで実施した。生徒・保護者の入力のしやすさ、教員の集計の利便性から取り入れたが、昨年度に比べ保護者の回答率が大きく増加した。（高校：昨年度42.9%→今年度80.0%）来年度についても、回収率の増加に向け、実施の方法や周知の仕方について検討したいと考えている。

(6) 自由意見より

①共通

学校評価アンケートの結果について知らせてほしいという要望があった。学校ホームページに掲載しているが、今年度はその旨を周知する。

その他、学校の指導に対する感謝の気持ちを表していただく一方、要望等が寄せられた。

②高校生徒

部活動や学校行事で、やりたいことができないという意見が複数あった。コロナ禍のもと安全・健康のもと実施しているため、それを窮屈に感じている生徒がいると思われる。今後、何らかの感染症対策は継続されると考えられるが、東京都教育委員会からの通知によりガイドライン等が変更になれば、それに合わせて学校でもさまざまな変更が行われていく予定である。また学校行事では公開されることがあるため、特に人権等に配慮して指導を行っている。これについては担当分掌と実行委員会が共通認識をもって行事の運営・準備にあたるようにするとともに、必要に応じて事前に担任・顧問・生活指導部から生徒に説明がされるよう、改善していきたい。

また、廊下で教職員に挨拶しても返されないという指摘があった。職員会議等で共有し、学校全体で取り組んでいく。

③中学生徒

授業の内容が難しい、進みが早いという記述があった。授業に対する満足度は数値としては高いが、ついていくのが容易ではないと感じている生徒の意見である。高校段階で高い志望校を目指して学力

を飛躍させるためにも、中学段階から成績がふるわない生徒に対する学習指導を充実させていきたい。

また、学校行事における指導についての指摘が、高校生と同様にあった。中高一緒の開催では、準備や指導も共通していくことが多くなるが、中学生にはより丁寧な対応を心掛けていきたい。

中高のつながりを求める意見が複数ある一方、中学生が中心となる活動を求める声もあった。地球学、部活動、学校行事等、さまざまな場面で活躍できる場面も設定できればと考えている。

なお自転車通学を認めてほしいという要望があったが、安全上高校生からとしている。

④高校保護者

学校行事を参観したいという意見が多く寄せられた。9月に学校ホームページでも掲出して、保護者にも説明していたが、学校としてはまずは従来通りの開催を第一に考え、その上で安全・健康上の観点から保護者の参観について検討した結果である。是非ご理解をいただきたい。

また学校からの情報発信が少ないという指摘もあった。表彰のみではなく、学年ごとの活動等も学校ホームページで掲載したり、Classiを活用して保護者の方に直接お知らせを配布したりして、学校の様子をお伝えするようにしていきたい。

学校評価アンケートで、回答に悩む質問項目があったということで、来年度は「わからない」を設定するかどうか検討していきたい。

⑤中学保護者

高校とは異なるルール等に保護者の方でも違和感を覚えていることがわかった。入学前の学校説明会、入学後の新生説明会、保護者会において、説明を尽くしたい。

生徒の荷物の重さについて、保護者が懸念を抱かれているが、特に一人ひとりに与えられている本校のロッカーが狭いということはないと認識している。持ち帰りが必要な教材とそうでないものを分けるなど、指導をしていきたい。

その他、保護者会で質問の時間が設けられていないという指摘があった。すぐに改善していきたい。

P T Aの活動に関する意見も寄せられており、一部の方に負担が大きい、土曜日に学校を使用したといったものがあった。前者は役員の方と共有し、後者は学校での行事等がある日を事前に紹介するなどしていきたい。

また、高校保護者同様、学校評価アンケートで、回答に悩む質問項目があったということで、来年度は「わからない」を設定するかどうか検討していきたい。

⑥教職員

教職員定数減に伴い、業務の負担感の増大への対応について意見があった。会議数の減少や事前調整の推進により、教員の授業準備・教材研究や、生徒との関わりの時間の捻出等をより進めていきたい。

学校評価アンケートの質問が、学校としての状況を問われているのか、個人ことを訊かれているのかわからず、回答しづらいという指摘があった。来年度実施の際には改善する。

⑦地域

近隣との交流についてご意見をいただいた。コロナ禍が収まりつつあり、安全・健康を念頭に置きつつ、検討していきたい。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・今年度については、3回とも学校にて対面で開催でき、直接意見を伺えたこと。
- ・教育関係者、本校保護者および地域の小・中学校等の関係者より、それぞれの立場から質問や感想等を通じて、本校の改善のための率直な意見が得られたこと。
- ・学校評価アンケートの項目について意見を聴取し、改善を図れたこと。
- ・本校の指導の体制や方針等について意見を交換し、互いの理解が深められたこと。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・教職員の働き方改革により、生徒への指導の充実が図られること。
- ・生徒の発達段階や学力等に応じたきめ細かい進路指導について、組織的な取り組みとしてより充実させること。
- ・学校評価アンケートの配布・回収方法のさらなる改善を行うこと。さらに設問項目について、検討が必要なこと。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ・学校の教育活動等の様子などについて、本校の特色を地域の方々にも理解していただくため、何かをしてもらうだけでなく、学校ホームページ等を活用して発信力を高めるとともに学校も地域と協同して取り組むことを目指す。
- ・生徒の学校生活充実のため、教育目標の周知や特色の明確化を進めていく。

(2) 学習活動

- ・生徒一人ひとりの学力を鑑みながら、ICT機器も活用しながら質の高い授業を実践する。
- ・生徒みずからが予習復習と授業の学習サイクルの確立を進め、主体的に学習を展開し、達成感を自覚できる環境を維持させる。

(3) 特別活動

- ・来年度も新型コロナウイルス感染症防止対策の観点から、安全・安心を確保できる学校行事、部活動の実施について検討・実践していく。
- ・学校行事の運営について、中高とも実行委員の生徒などの主体的な活動を促し、立案・実行していく。

(4) 生活指導

- ・基本的な生活習慣やマナーが身につく指導を継続し、健康な心と体の育成に尽力する。
- ・生徒の心身の悩みに応えられる適切な指導を行うため、各生徒への声掛け等を継続し、必要に応じて教員間で情報共有を行いながら対応していく。

(5) 進路指導

- ・個々の適性や希望に合わせた有効な情報提供を続け、主体的に進路を切り拓ける力を身に付けさせる。
- ・各生徒の学力等を踏まえ、適した目標の提示や段階を追った細やかな指導を担当団や進路部が連携するなど組織的に支援する体制を継続する。

(6) 健康・安全

- ・スクールカウンセラー、地域の諸機関との連携を強化する方法を検討していく。
- ・生徒の登校時における徒歩や自転車での交通マナーについて引き続き指導する。

6 学校運営連絡協議会の評価アンケート・「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員 人数 9人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
8	1					